

ゆうちょ銀行売出し 買って良い？

【話題の銀行株×高配当銘柄】

2023/03/01

日本郵政によるゆうちょ銀行株の売出し

Bloomberg

ニュース

マーケット情報

ビデオ・TV

ブルームバーグについて

日本郵政がゆうちょ株一部売却へ、 総額1.3兆円 – 比率65%以下に

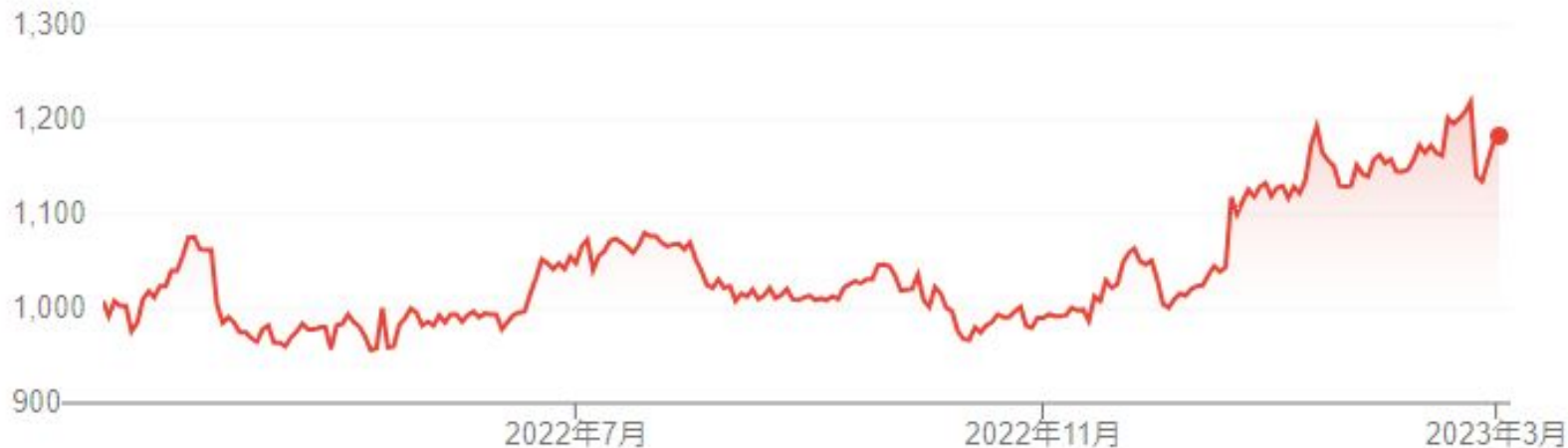
伊藤小巻、沢和世

2023年2月27日 15:16 JST 更新日時 2023年2月27日 16:28 JST

日本郵政は27日、保有する傘下ゆうちょ銀行株の一部を国内外で売り出すと発表した。タイムシートによると、国内外のオーバーアロットメントを含めた売り出し総数は10億8900万株、売り出し総額は約1兆3000億円となる。

なぜ今か？

- 小泉政権での民営化方針により、2007年株式会社化
- 2015年に新規上場、将来的に50%未満にする計画(現在89%)
- 足元で金利上昇期待から銀行株が上昇



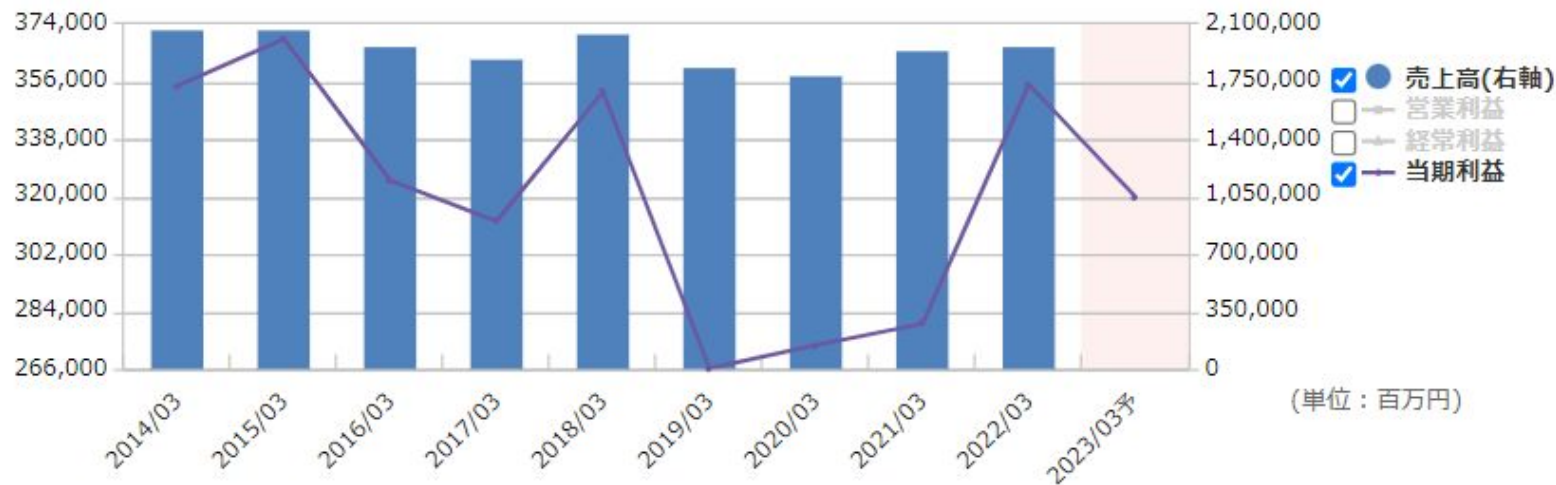
業績は横ばい～ややマイナス

通期業績推移

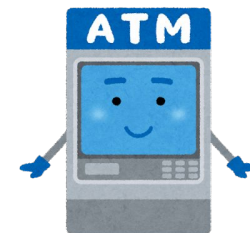
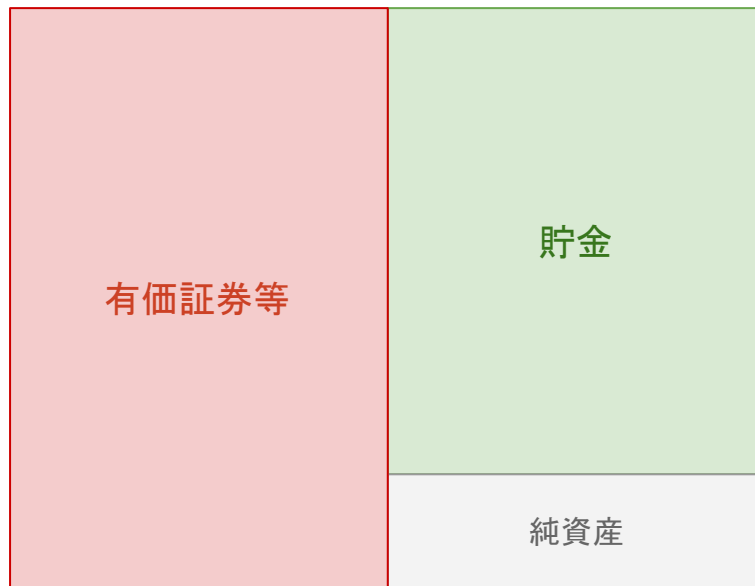
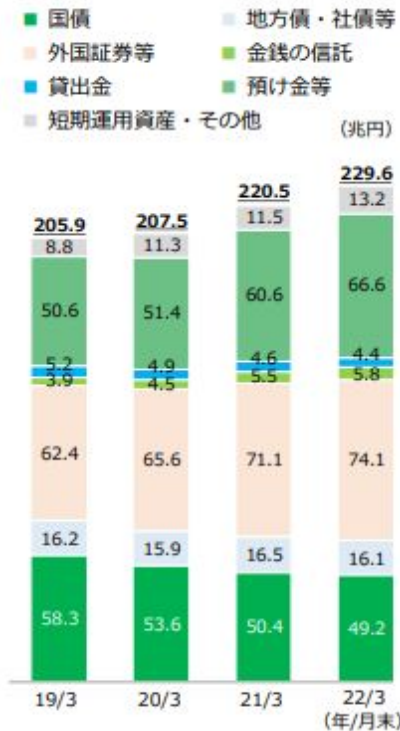
業績 前期比 指数 利益率 変動要因

全期間

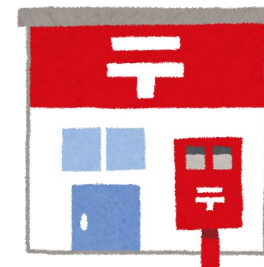
詳細



ビジネスモデル



31,700台



24,000店

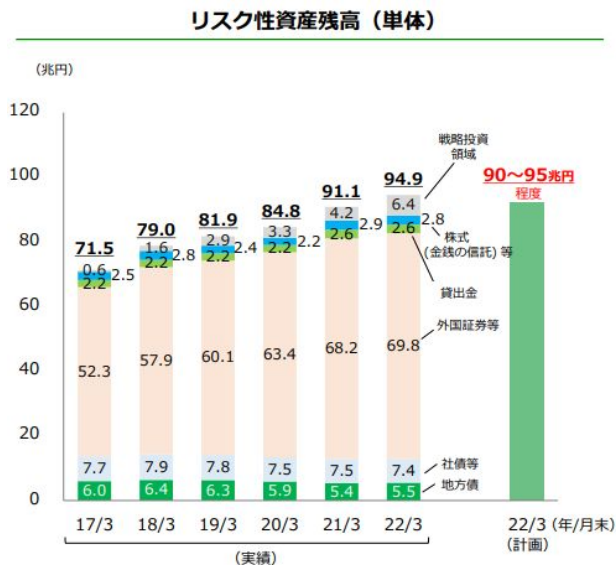
成長ストーリー

国内金利の上昇



出典：[三井住友信託銀行](#)

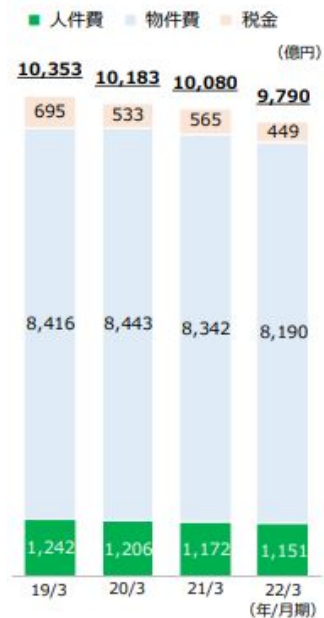
リスク性資産への投資



※1 リスク性資産：円金利（国債等）以外の資産。

出典：[2022年3月期決算説明資料](#)

経費の低減



出典：[2022年3月期決算説明資料](#)

リスク

- キャッシュレス進展による預金減少
- リスク性資産への投資
- 国内金利上昇しない可能性も

つばめ投資顧問としての見方

- 外部環境として金利上昇の可能性はあるが、**不確実性は高い**。
- 収益向上策として**リスク性資産**への投資を行っているが、裏目に出る可能性もある(為替等)。
- 成長性が限定的な中で、キャッシュレスの進展等により預金が減少すれば、収益もジリ貧になる可能性。そもそもの**資本収益性も低い**。

配当に対する見解

1株当たり年間配当の推移

(円)



配当性向

60.0% 53.1% 70.4% 68.5% 66.9% 52.7% —

配当利回り 4.25%

(2023年2月28日時点)

基本的には維持される可能性が高いと思うが、増える可能性は低く、ミスを犯したときの減配リスクあり。

(配当を狙うならもっと良い銘柄も)

バリュエーション(2023/2/28時点)

	ゆうちょ銀行	三菱UFJFG	三井住友FG	みずほFG
PER	13.8倍	11.5倍	10.6倍	10.0倍
PBR	0.48倍	0.70倍	0.66倍	0.60倍
ROE	3.28%	6.69%	5.91%	5.79%
配当利回り	4.25%	3.32%	3.85%	4.00%
配当利回り(前)	4.25%	2.90%	3.52%	3.77%

証券会社に勧誘されたらどうする？

- ディスカウント(2.0~4.0%)があり、有利とされる
- 2021年の勝率は65%、平均騰落率は1.3%(売出価格vs受渡日の始値)
- ただし、2019年のかんぽ生命は大失敗



本日の値動き

市場概況 > ゆうちょ銀行

1,222 JPY

+46.00 (3.91%) ↑ 今日

3月1日 14:01 JST・免責条項

1日 | 5日 | 1か月 | 6か月 | 年初来 | 1年 | 5年 | 最大

